

建築研究所ニュース



平成21年 1月13日

革新的構造材料を用いた新構造システム建築物研究開発に関する実大実証実験公開・技術展示並びに記者会見について

平成21年1月20日（火）（独）建築研究所（つくば市）にて「実大実証実験公開・技術展示」並びにプログラム終了後の「記者会見」を実施いたしますのでご案内致します。

（内容の問合せ先）

社団法人 日本鋼構造協会
所属 新構造システム建築物研究開発委員会
氏名 内田健康
電話 03-5919-1535（直通）
E-mail t.uchida@jssc.or.jp

報道各位

取材のご案内

平素は、建築分野の諸活動にご理解・ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、来る1月 20 日(火)(独)建築研究所(つくば市)にて開催の府省連携プロジェクト「革新的構造材料を用いた新構造システム建築物研究開発」にかかわる「実大実証実験公開・技術展示」ならびに「記者会見」をお知らせいたします。

「実大実証実験公開・技術展示」は、別紙(2)のように 16 時から実験公開・技術展示の内容を約 1 時間半でご紹介するプログラムを用意いたしました。その後 17 時半から記者会見を予定しています。

遠路恐縮ではございますが、当日会場まで取材にお運び下さいますようお願い申し上げます。なお、大変お手数ではありますが、出欠のお返事と、ご来場に際して TX つくば駅からのチャーターバスをお使いいただけますので別紙(1)の FAX にてお時間、ご利用交通機関などを、16日(曜日)までにお知らせいただければ幸いです。

共催 (社)日本鉄鋼連盟 (社)日本鋼構造協会
(社)新都市ハウジング協会 (独)建築研究所

(問合せ先:(社)日本鋼構造協会

新構造システム建築物研究開発委員会

事務局 内田健康

TEL:03-5919-1535

メールアドレス:t.uchida@jssc.or.jp

平成 21 年 1 月 13 日

FAX 03-5919-1536

(社)日本鋼構造協会 新構造システム建築物研究開発委員会 事務局 内田健康 行き

(問合せ先; TEL; 03-5919-1535)

(メールアドレス: t.uchida@jssc.or.jp)

記者会見の出欠及び利用交通機関の連絡

記者会見の出欠連絡について(☑をお願いいたします、以下同じ)

- 出席する 欠席する

16 時からのプログラム(1 時間半で全体をご紹介)に合わせてのバス利用について

…TX つくば駅 A1 出入口から 15 時 30 分発のチャーターバスをご利用いただけます。

- 利用する 利用しない

(TX つくば駅 A1 出口、15:30 発、**添付1** 参照)

なお、記者会見終了後、一般来場者と同乗ではありますが TX つくば駅までのチャーターバスをご利用いただけます。

- 利用する 利用しない

ご所属(_____)

お名前(_____)

連絡先電話番号(_____)

同 FAX 番号 (_____)

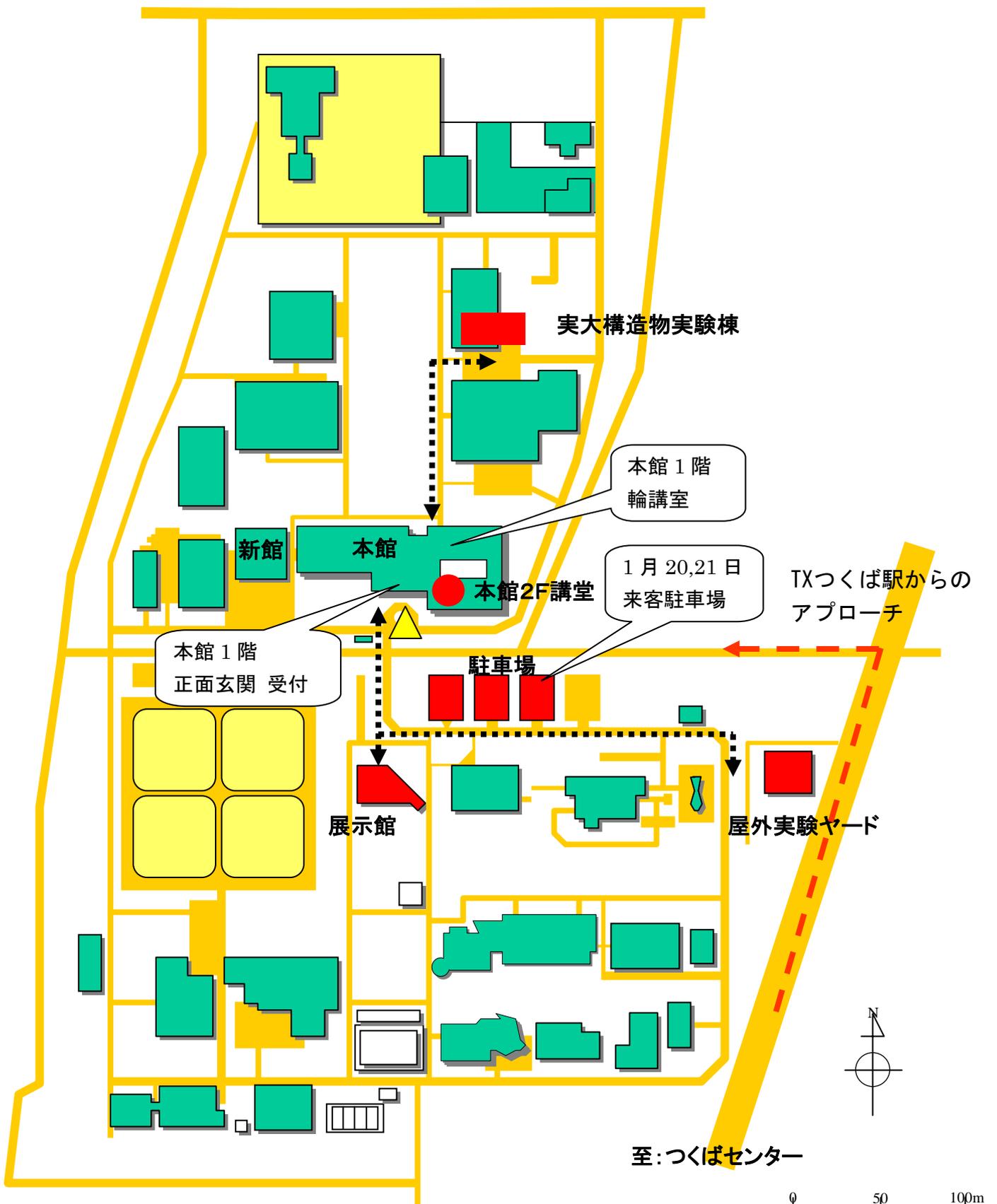
－ 1月20日(火) 16時からのプログラム －

予定時間	プログラムなど	場 所
15:30-	建築研究所行きバス出発(チャーターバス)	TX つくば駅 A1 出口
16:00	建築研究所 正面玄関にて受付	
16:00-16:10 屋外実験ヤードへ	新構造システム建築物 研究開発 事業ならびに実験・展示の概要説明 ①ANUHT:加力実験 ②JISF/JSSC:加振実験、BRI:IC タグ実験	1F 輪講室
16:20-16:40 実大構造物実験棟へ	実大実証実験公開 ②JISF/JSSC:加振実験、BRI:IC タグ実験	②屋外実験ヤード
16:50-17:10 展示館へ	実大実証実験公開 ①ANUHT:加力実験	①実大構造物実験棟
17:15-17:30	新構造システム建築物研究開発 技術展示	展示館
17:30-18:00	記者会見	展示館
18:15頃	TX つくば駅行きバス(チャーターバス)出発	建築研究所 玄関

注)天候が雪・雨の場合に係らず開催の予定です

参考)1月20日全体プログラム

時 間	プログラム	場 所
12:30-12:45	開会挨拶	本館2階講堂
12:45-12:55	新構造システム建築物 研究開発事業概要説明	
13:00-14:00	実大実証実験公開 ①ANUHT:加力実験	①実大構造物実験棟,
14:00-14:55	実大実証実験公開 ②JISF/JSSC:加振実験、BRI:IC タグ実験	②屋外実験ヤード
14:55-15:50	技術展示:全体概要・開発要素技術・建物企画 提案(FS)・ICタグ関連	展示館
15:50-16:05	ICタグ実験説明 ①ICタグ利用履歴情報・生産管理手法 ②ICタグ情報のネットワーク利用デモ	本館2階講堂
16:05-16:55	新構造システム建築企画提案概要説明 新鋼材利用建物企画提案(FS)5事例	
16:55-17:30	質疑・閉会挨拶	
17:30-18:00	記者会見	展示館



建築研究所 配置図

平成 20 年 12 月 25 日

各位 殿

「革新的構造材料を用いた新構造システム建築物研究開発」の
「実大実証実験公開・技術展示」開催のご案内

共催 (社)日本鉄鋼連盟 (社)日本鋼構造協会
(社)新都市ハウジング協会 (独)建築研究所

関係各位におかれましては、平素から標記研究開発の推進を御支援いただきありがとうございます。
政府の骨太の方針「2002 産業発掘戦略」、総合科学技術会議「ナノテクノロジー・材料分野の産業発掘の推進」を受け、府省連携プロジェクトとして平成 16 年度に着手した本研究開発は、参加機関、企業の協力により、順調に推進され本年度最終年度を迎え、成果とりまとめの段階となってまいりました。

昨今 国内でも大きな地震による被害が頻発しており、本研究開発が課題としてきた建築物の耐震性向上(震度 7 クラス無損傷の架構システム技術)は重要度の高いニーズとなってきています。同時に、地球環境問題の課題に対応して、建築物生産における省資源化・省CO₂ 技術の具現化を早急に実現すべき社会情勢にあります。

このような状況を踏まえて、「革新的構造材料を用いた新構造システム建築物」の建築市場への早期普及を目指し、当該事業(一部共同研究を含む)における最終年度の実施課題として、下記のような「実証実験公開」や展示によるプレゼンテーション等により、建築事業者やエンジニアを含めた多くの方々へ技術成果、効果などの公表を共催で行なうことと致しました。

皆様におかれましては、多忙なこととは存じますが、この「実大実証実験公開・技術展示」についての詳細なご案内をさせていただきますので、ご出席の程 よろしくお願い申し上げます。

記

府省連携「革新的構造材料を用いた新構造システム建築物研究開発」
に係わる「実証実験公開・技術展示」の概要

公開等対象者 ; 府省関係者、官民事業者、学識者、設計事務所、建築構造エンジニア、構造研究者

日時 ; 平成 21 年 1 月 20 日(招待者向け)～21 日(専門家向け) 12 時半から 17 時半

場所 ; (独)建築研究所 (つくば市立原1)

記者会見 ; 平成 21 年 1 月 20 日(火) (独)建築研究所にて(詳細は別紙を)

公開実験概要 ; 実大建築架構による生産プロセス確認ならびに耐震実験(別紙参照 ; 2種類の試験)

展示等概要 ; 府省連携プロジェクト成果概要

(主要な開発技術、建築物設計施工指針案、プロジェクト計画事例)

以上

問合せ先;

(社)日本鋼構造協会 佐藤秀雄 03-5919-1535)

(社)日本鉄鋼連盟 中島正弘(03-3669-4815)

(社)新都市ハウジング協会 本橋秀世(03-3504-2381)

(独)建築研究所 中島史郎 (029-864-2151(代表))

H20年度 府省連携プロジェクト「革新的構造材料を用いた新構造システム建築物の研究開発」

【連携府省】 内閣府・総務省・文部科学省・経済産業省・国土交通省

【民間参画機関】(社)日本鉄鋼連盟/(社)日本鋼構造協会(9社)・(社)新都市ハウジング協会(21社)

【プロジェクト目標】震度7クラスの地震に耐え、長寿命で環境にやさしい、新たな建築構造技術を構築し、社会に早期普及

- 震度7クラスの地震にも無損傷のスケルトン技術確立
- 耐用年数200年で用途可変に対応
- 従来建物と同程度の鉄骨量で高耐震性を実現
- 社会資産としての建物評価法を確立

【(社)新都市ハウジング協会の実験概要(平成20年9月現在)】

『目的』:

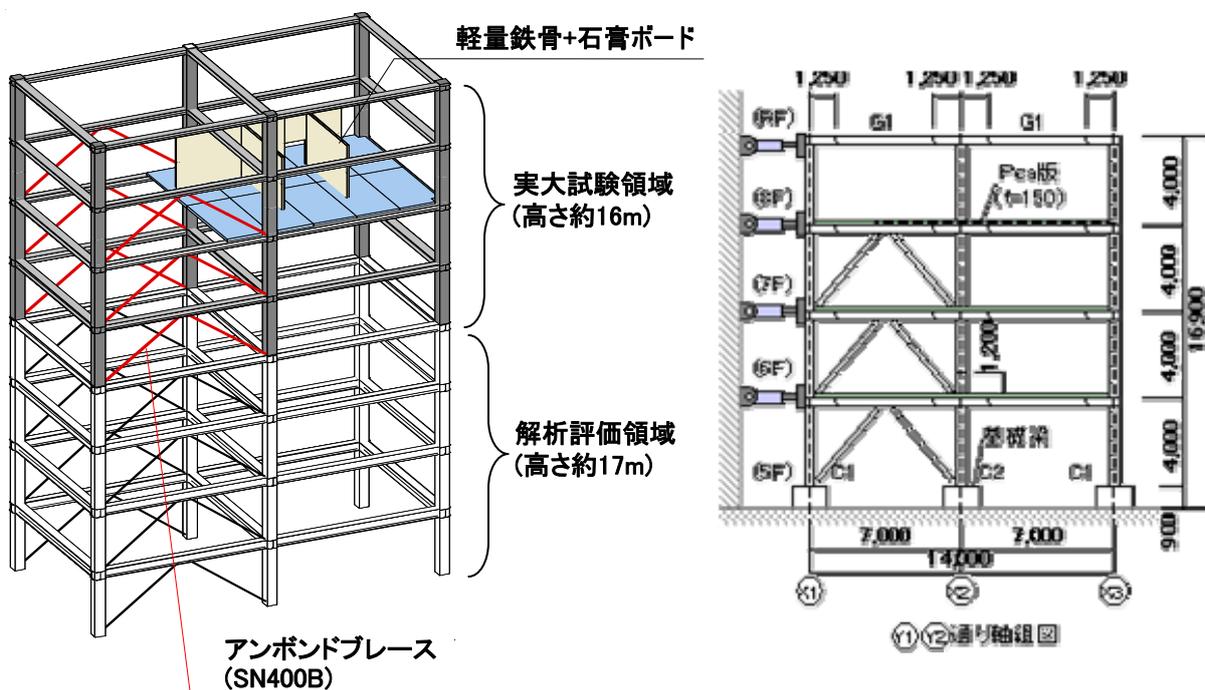
震度7クラスの地震に耐える鉄骨スケルトン設計施工技術の確立

『実大実証建物の構造・形状』:

- ・アンボンド制振ブレース付きラーメン構造(一部柱乾式接合)
- ・縦 7m × 横 14m × 高さ 16m

『実験項目』:

- ・震度7クラスの地震に対する主架構(柱・梁)弾性の検証
- ・柱、梁、スラブのリユース性能の検証
- ・インフィル変形追従性能の検証
- ・柱梁溶接接合部の性状の確認



実大実証建物 ラーメン架構 鳥瞰図

実大実証建物 断面概要

(平成20年度 住宅・建築関連先導技術開発助成事業 1/2 国交省住宅局住宅生産課)

H20年度 府省連携プロジェクト「革新的構造材料を用いた新構造システム建築物の研究開発」

【連携府省】 内閣府・総務省・文部科学省・経済産業省・国土交通省

【民間参画機関】(社)日本鉄鋼連盟/(社)日本鋼構造協会(9社)・(社)新都市ハウジング協会(21社)

【プロジェクト目標】震度7クラスの地震に耐え、長寿命で環境にやさしい、新たな建築構造技術を構築し、社会に早期普及

- 震度7 クラスの地震にも無損傷のスケルトン技術確立
- 耐用年数200年で用途可変に対応
- LCCO2を30% 削減(建築物総体で)
- 廃棄物発生量を80%削減(建築物総体で)

【(社)日本鉄鋼連盟/(社)日本鋼構造協会の実験概要(平成20年9月現在)】

『目的』;

リユースを想定した鉄骨造スケルトン設計施工技術の確立

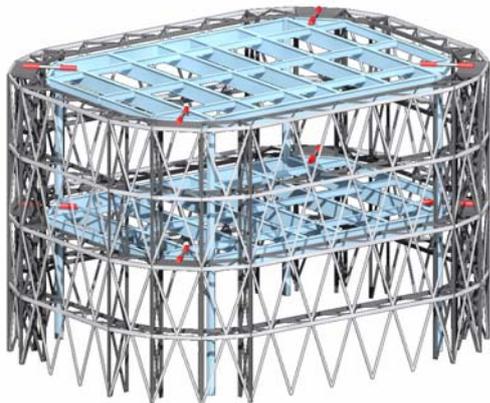
『実大実証建物の構造・形状』;

・組立柱梁乾式接合構造(外殻架構) 2階建て・縦 17.5m×横 22.5m 高さ 14.5m

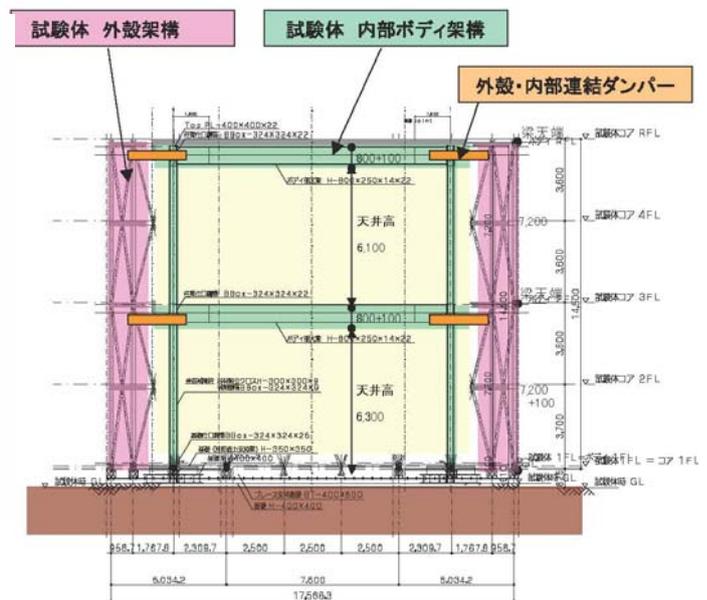
連結制振システム 各架構固有周期 : ボディ部=2.1秒 外殻部 =0.13秒

『実験項目』;

- ・コンパ外AMD加振による構造性能検証
- ・組立材に適合した生産計画技術
- ・ICタグ活用による履歴管理手法の検証((独)建築研究所と共同研究)



実大実証建物 外殻架構 鳥瞰図



実大実証建物 断面概要

(平成20年度 エネルギー使用合理化社会基盤材料関連技術等開発費補助事業 2/3 経産省製造産業局 鉄鋼課製鉄企画室) (ICタグ活用による履歴情報管理手法の検証(共同研究;(独)建築研究所/JSSC))

添付1

「革新的構造材料を用いた新構造システム建築物研究開発」の「実大実証実験公開・技術展示」

平成21年1月20日(火) 午後15時30分発 (定刻出発)
つくば(独)建築研究所行きチャーターバス集合場所

